

授業科目名	国文学入門(2100130)		
時間割名	国文学入門(15101)		
時間割担当	阿尾あすか		
実施期	前期	単位数	2 選択
曜日・時限	月・5		

授業の目標・概要

中学高等学校の国語教師として必要な、国文学に対する基礎知識の習得を主な目標とする。日本古典文学を構成する大きな一要素ではあるが、古典文学学習者が理解に困難を感じやすい和歌を中心に取り上げ講義する。和歌を学ぶことは、日本人が長い歴史の中で培ってきた言語感覚や季節感などを理解し、自らの言語感覚や感性をみがく手立てとすることである。本講義では、中学高等学校の教師として、次世代に日本の伝統的な言語文化をどのように伝えていくのかという問題についても考える。

学習の到達目標

- 1) 日本古典文学を鑑賞するのに必要な和歌の基礎知識を習得している。
- 2) 古典文法や修辞技巧に留意しながら和歌内容が理解できる。
- 3) 和歌によってあらわされる日本人の季節感や心情が理解できる。
- 4) 和歌を通じて前近代の日本人の言語感覚をつかむ。

授業方法・形式

- 1) それぞれの学習テーマに対して、テキストや補助資料を活用しながら授業を進めていく。
- 2) ワークを行い、意見を共有して学びを深める。
- 3) 取り上げるテーマに関するディスカッションを行う時もある。
- 4) 『百人一首』のかるたに代表される和歌文化について、体験を通して知る。
- 5) 和歌に多く用いられる古典文法についての課題を課し、小テストを行う。

授業計画

- 第1回 導入 「ことばの力」和歌と短歌
- 第2回 導入 和歌とは何か?
- 第3回 和歌の歴史 古今集時代
- 第4回 和歌の歴史 古今集時代の修辞技法
- 第5回 和歌のルール 『百人一首』
- 第6回 和歌の技巧 掛詞
- 第7回 和歌の技巧 序詞
- 第8回 和歌の技巧 縁語
- 第9回 和歌の技巧 折句
- 第10回 和歌の技巧 枕詞
- 第11回 和歌の技巧 本歌取
- 第12回 和歌の歴史 新古今時代
- 第13回 和歌の歴史 新古今時代の修辞技法 題詠
- 第14回 勅撰和歌集についてのまとめ
- 第15回 これまでの学びのまとめ・古典文学とアクティブラーニング

成績評価の基準

振り返りおよび平常点、課題の提出、小テスト(50%)
 学期末のレポート課題(50%)

準備学習・復習及び授

- 1) 『百人一首』に関する注釈書等の書籍を読み、予習しておく。
- 2) 講義で配付されたプリントを読み直して復習する。
- 3) 古文法についてプリントを配付するので復習し、課題に取り組む。
- 4) 古文法の課題内容から小テストを行うので、予習すること。
- 5) 講義で扱われたのと同じ技巧を用いた和歌を調べて、講義で発表する。

履修上のアドバイス及

「文学」の講義を受講していることがのぞましい。積極的な授業参加を求めます。課題はもちろんのこと、自主的に行う小レポート等の取り組みも評価の対象となります。わからない箇所はその都度、質問したり調べるなどして解決をはかるようにしましょう。また、古文法については特に助動詞の活用形と意味について復習しておきましょう。

教材・教科書

講義で配付するプリント

参考書

高等学校国語便覧・渡部泰明著『和歌とは何か』(岩波新書)・渡部泰明編『和歌のルール』(笠間書院)・杉田圭『超訳百人一首 うた恋い。』(メディアファクトリー)